

国際交流

1997年 9 月30日創刊

2026年 6 月30日発行(第48号)

二松学舎大学国際交流センター

〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

Tel : 03-3261-5751

◆目 次◆

①2025年度海外留学の報告	1
②二松学舎大学と海外の大学との協定締結	
国立東華大学(台湾)	1
国立金門大学(台湾)	1
③2025年度 派遣留学修了報告	
文学部4年 山田 和実(英国 バッキンガム大学)	2
文学部3年 松原 凜(韓国 成均館大学校)	3
文学部2年 田口 未央(韓国 建国大学校)	4
④2025年短期海外語学研修(英語・中国語・韓国語)報告	
アメリカ研修参加学生(サンフランシスコ州立大学) 平栗 颯	5
英国研修参加学生(ケンブリッジ大学) 玉木 陽奈子	6
オーストラリア研修参加学生(サザンクロス大学) 谷 紀輝	7
マレーシア研修参加学生(アジアパシフィック大学) 大野 拓士	7
フィリピン研修参加学生(エンデラン大学) 三浦 萌夏	8
台湾研修参加学生(淡江大学) 松浦 花音	9
台湾研修参加学生(国立台湾師範大学) 小口 楼紗	10

韓国研修参加学生(建国大学校) 高橋 沙也加	11
韓国研修参加学生(高麗大学校) 松丸 敬吾	12
⑤2025年度 国際交流の会および懇親会の実施報告	12
⑥2025年度 日本語・日本学特別プログラムと国際日本学特別プログラム修了報告	
日本語・日本学特別プログラム報告 嘉興大学 童 燁涛	13
日本語・日本学特別プログラム報告 四川外国語大学 王 晴	13
日本語・日本学特別プログラム報告 浙大城市学院 林 晨希	13
国際日本学特別プログラム報告 江西師範大学 陳 思睿	14
⑦2025年度 交換留学生報告	
カ・フォスカリ大学(イタリア) メウッチ アリーチェ	14
浙江工商大学(中国) 沈 靖凱	15
中国文化大学(台湾) 陳 芮萱	15
銘伝大学(台湾) 王 芊婷	15
成均館大学校(韓国) 金 太陽	16
⑧国際交流センターからのお知らせ	16

2025年度 海外留学の報告

2025年度も、本学は海外大学との交流を積極的に展開し、学生の海外留学および留学生の受け入れを行いました。本学初となるフィリピンでの研修を実施したほか、数年ぶりにケンブリッジ大学への研修参加を再開し、北京大学への長期派遣も継続しています。また、高麗大学

校への研修参加をはじめ、国際的に高い評価のある海外大学との交流も広がりました。こうした取り組みを通じて、学生の国際的な視野を広げるとともに、グローバルシチズンとしての理解を深めています。今後も、さらなる国際交流の充実を図ってまいります。

派遣先大学名一覧：サンフランシスコ州立大学（アメリカ）、ケンブリッジ大学・バッキンガム大学（英国）、サザンクロス大学（オーストラリア）、エンデラン大学（フィリピン）、アジアパシフィック大学（マレーシア）、北京大学（中国）、銘伝大学・淡江大学・国立台湾師範大学（台湾）、高麗大学校・成均館大学校・建国大学校（韓国）

受け入れ国・地域一覧：イタリア、中国、台湾、韓国

二松学舎大学と海外の大学との協定締結について

本学は、台湾の国立東華大学および国立金門大学と、大学間協定を締結いたしました。両大学との協定締結により、東アジア地域でのさらなる学生交流や学術交流など、国際的な教育・研究活動の発展が期待されます。

国立東華大学は、台湾東部・花蓮県に位置する総合大学で、広大で風光明媚なキャンパスと、落ち着いた学修環境で知られています。人文社会科学から理工系分野まで幅広い学部を擁し、台湾のみならず国際的にも高い評価を受けている大学です。

国立金門大学は、大陸に近い金門島に位置し、歴史的・地政学的にも重要な地域に根ざした大学です。東アジアの歴史や文化を考える上で極めて特徴的な立地があり、その教育・研究には高い独自性が認められます。日本国内における協定校は限られており、その希少性と独自性の観点からも、今回の協定締結は大変意義深いものといえます。

今後も海外教育機関との交流事業のさらなる展開にぜひご期待ください。

2025年度 派遣留学修了報告

英国 バッキンガム大学

文学部 国文学科4年
山田 和実

1. 留学を終えた感想

留学では日本ではできない体験、経験を得ることができ、知識の広がりや、考え方の変化を感じることが出来ました。大学で学んだこと、言語的な成長はもちろんのこと、生活をする上で得た知識、様々な国籍の学生と関わることで得た多角的、国際的な視点はすべて今後の生活に活かせると考えています。この留学は私にとって大きな転換点であり、何事にも代えられない貴重な経験をしたと思います。日本からでて海外で約一年間生活することは私にとっては大きな挑戦でしたが、留学を終えて自分のポジティブな変化を受け、改めて留学をしてよかったと思います。今後は、二松学舎から海外留学に行く人を支えつつ、将来的には公務員となり、世界で活躍する人材になりたいです。

2. 留学を決めた目的と理由

留学を決めた理由は自分の成長のためです。私は中学の頃から英語の勉強に挫折し、英語に対して苦手意識を持っていました。そのため、高校は地元の新潟県内で一番英語に特化した学校を選びました。そこでは英語の運用能力は高校で少しは改善したのですが、それでも英語への苦手意識を拭うことも、勇気がなく海外に行くこともできませんでした。このような経緯から、強制的に英語を話さなければならない環境に身を置くことで英語への苦手意識の改善、英語勉強の継続につながると思い、留学を決意しました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

私は留学先で、国際関係や政治を中心に学びました。ファンデーションコースでは大学の学部に進学する人のためのコースであり、専攻学科の基礎、コンピュータースキルの基礎、ライティングのやり方、国際関係の授業など学部に進学するための準備をする授業が主でした。クラスは20人ほどの小規模であり、グループディスカッションやディベート、プレゼンテーションなど他の学生と話し合わなければならず、自分の意見を常に持つておくことが必要でした。先生は、困りごとなどがあればすぐに相談に乗ってくれ、授業でわからない部分、生活で困ったことなどなんでも気軽に相談することが出来ました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちの思い出

留学先では人に恵まれました。先生はとてもやさしく留学生の私の相談に乗ってくれ、アドバイスをその都度与えてくれました。また、私の日ごろの態度や頑張りを定期的に褒めてくださり、モチベーションの維持につなげることが出来ました。友人もとても魅力的で、私が困っていたら話を聞いてくれたり、気分転換に付き合ってもらったりしました。授業終わりや休日は遊びに行き、仲を深めることで助け合える関係を築き合えました。

5. 留学のおすすめポイント

留学のおすすめポイントは言語運用能力の向上と多文化理解だと思います。留学先ではその土地に根差した言語を日ごろから使用することにより、他言語が身につくやすく、日本にいる時より学習の成果が出やすいと感じます。

6. 現地での生活について

現地では寮に下宿し、他の学生との共同生活を送りました。私の住んでいた寮は個人部屋があり、キッチンだけ共同でした。寮の雰囲気は比較的良かったのですが、大学が4学期制ということもあり、人の入れ替わりが激しく、たびたび騒音問題や共同キッチンをたまり場に学生が出てきたりして大変でした。

7. 留学で成長した点

約10カ月間の留学を終えて、私が感じたのは自身の精神的な成長です。私は元来自分から行動することが苦手であり、誰かに質問をすること、自分から見知らぬ人に話しかけに行くことなどを忌避していました。しかし、留学をするにあたって、そのままの私では何も学ぶことができずに留学を終えてしまうと考え、自分から積極的に行動することを心がけました。具体的に、自分からクラスメイトに話しかけに行くこと、授業中に手を挙げて発言することなどを心がけました。このような行動を心がけることで、自然と自分に自信が持てるようになり、



先生からのサプライズプレゼント

知らない人に話しかけるのを躊躇しなくなりました。また、性格についても留学前よりも前向きになり、挑戦する姿勢を養えました。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

留学前に準備しておけばよかったものは、専門的な語彙力や英語での論述力です。現地ではエッセイやディスカッションで自分の考えを論理的に説明しなければならず、自分の語彙力の低さ、論理的に英語を話す練習をしていなかったことにより、表現や言い回しがわからず苦労しました。現地の文化に慣れること、課題をこなすことに精一杯で、なかなか十分に自主勉強の時間をとることができなかったのも、日本で勉強をしておくべきだったと思いました。また、イギリスの文化や制度などを知ったうえで渡英したほうがよかったとも思います。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

留学前は初めての海外ということもあり、不安で何をしても準備不足なような気がしていました。現地で友達ができるかどうか、単位をとることができるのかもわからず、渡英したくないとまで思っていました。しかし、留学を終え、今では留学に行ってもよかった、あの時留学に行く選択をした自分を誇りに思っています。留学前の自分には、そんなに不安にならなくても素敵な人たちに逢い、楽しい経験ができると伝えたいです。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学を検討している後輩へは是非留学を経験してほしいと思います。留学への挑戦は難易度が高いです。その理由は費用の高さ、慣れない土地での生活をしなければならないところにあります。しかし、二松学舎大学の派遣留学生は多額の奨学金を受け取れ、自費よりはるかに安く留学することができます。慣れない土地で生活をしなければならない不安やリスクは避けることができますが、それ以上に素敵な体験ができます。メリットとデメリットを比べてもメリットの方がはるかに大きいと思います。ぜひ躊躇せず留学に挑戦してほしいです。

韓国 成均館大学校

文学部 中国文学科3年
松原 凜

1. 留学を終えた感想

留学開始当初は日本での暮らしとのギャップや環境の変化などで様々な不安やストレスがありましたが、徐々に生活に慣れて、新しい友達もできてきたあたりから留學生活が格段に楽しめるようになりました。もちろん授業や日常会話などから語学力の上達を感じることもできましたが、私はそれ以上に行動力や生活力、多文化への理解といった面で自分の成長を感じることができました。

成均館大学校には韓国国籍の方以外にも様々な国籍の人が集まり授業を受けるため、授業内容以上のことを非常にたくさん学ぶことができました。こういった大学での生活や、一人で解決しなければいけないという経験を通して、この約一年間の留学は単なる語学力の向上のためではなく、人として一歩成長できる良い機会になったと感じています。

2. 留学先での学習内容や教育研究活動

主に文化について学習していました。前期から語学堂には通わずに現地の学生と同じ正規の授業を受けていました。韓国人の目線から見た日本文化に興味があったため、日本大衆文化の授業や、国語、韓国文化といった授業が主な内容です。毎週ミニレポートを出す授業もあれば、中間考査や期末考査の時期に試験、レポートを提出する授業もありました。また、授業中に自分の作ったパワーポイントを用いて発表するという授業もありました。

3. 留学先の魅力や出会った人たちの思い出

大学では勉強熱心な学生が多くいるため、そういった人たちの授業に対する姿勢が自分の中でかなりモチベーションに繋がりました。町全体では、韓国は日本に比べ人と人との距離が近く、初めての地でも多くの人と交流を持つことができました。ご飯屋さんや市場では、話しかけてくださる方が多く、そういった交流を楽しむことができました。

4. 留学のおすすめポイント

言語習得はもちろん、行動力がつくようになります。どうしても自分から行動を起こさないといけない場面が多くなるため、自然に自分で考えて行動することが多くなりました。また、授業や寮などで様々な国の人たちとコミュニケーションをとるため、知らない人と話すことへの抵抗がなくなりました。気になることや知らないことは人に聞いてもいいんだということを留学を通して改めて気づくことができました。

5. 現地での生活について

学生寮は基本的に二人以上の部屋になっています。授業のスケジュールは日本と大差はありませんでした。朝もしくは、昼頃から授業に参加し遅くても18時には終わります。その後は寮に帰宅するか、友達とご飯を食べに行っていました。週末も友達と出かけに行ったり、近くのスタディカフェで勉強をしたりしていました。

6. 留学で成長した点

行動力や多文化への理解が深まったことが自分の中で



成均館大学正門の前で

は一番の成長だと感じています。今自分は何をするべきなのか理解し、そのためにどういった行動をとらなければいけないのか常に考えるようになりました。また、一年という限られた時間の中で、留学をむだにしないという思いも行動

力につながったのではないかと感じています。多文化への理解は、韓国だけでなく、グローバルバディプロジェクトで出会ったパートナーや、授業のメンバー、学生寮のルームメイトなど、日本ではなかなか交わることのない人たちと関わったことで、本当に様々な文化を学ぶことができました。

7. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学に行ったという事実はきっと必ず自分の強みになると思います。留学中は、異国の地での生活に緊張を覚えるため、自分の感覚が普段よりも鋭くなります。そのため、普段日本では気づくことのできない小さな変化や、日本と韓国の違いなどに気づくことができます。こういった気づきは教科書や授業では学びきれないことだと思います。そういった小さな学びだけでも留学の価値は十分にあると思います。授業の内容に縛られずに、日常の小さな学びを積み重ねていけるのが留学の一番の魅力だと感じています。少しでも興味のある方は、周りの方とよく相談して検討してみてほしいです。

韓国 建国大学校

文学部 中国文学科2年
田口 未央

1. 留学を終えた感想

留学を終えて、最も強く感じたのは「ここでしかできない学びを得られた」という実感です。韓国での生活の中では、体調を崩してしまうこともあり、決して楽なことばかりではありませんでした。ですが、その経験も含めて異国で生活し学ぶことの重みを実感する時間でした。

もともと私は、日本と韓国の歴史や文化を比較し、それぞれの背景をより深く理解することに興味がありました。実際に韓国で日本史の授業を受け、日本では自国史として学んできた内容が異なる視点などを知ることがで

きたのは大きな刺激となりました。また、韓国の歴史、特に民族運動や近代史について現地で学んだことで、教科書だけでは得られない背景や感情を知ることができたと感じています。

2. 留学を決めた目的と理由

私が留学を決めた理由は、まず「何事も経験だ」と考えたからです。高校生の時から韓国への留学に関心を持っていて、いつか実際に現地で生活してみたいと思っていました。留学の目的は、単に韓国語の言語能力を向上させることだけではなく、人と関わりながら現地の文化や生活を直接体験することにありました。日本で韓国語を学ぶこともできますが、実際に韓国で生活することでしか得られない経験や気づきが必ずあると考えたからです。また、私は韓国語そのものというよりも、「韓国という社会や文化、歴史について学びたい」という思いが強かったです。そのため韓国に行けば、日本にいただけではわからないことをより深く理解できると考え、留学を決意しました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

通常の授業に加えて、グループでの発表や制作を行う授業が多くありました。日本より授業時間が長く、内容が深く濃いと感じた点が印象的でした。学生一人ひとりが自分の意見を持ち、積極的に授業に参加していました。先生方もやさしく、様々なところでたくさんの配慮をしていただきました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

食文化や街並みなど、日常生活の中で文化の違いを実感できる機会が多いことや、伝統的な建造物と現代的な都市空間が共存していて、歴史と現在を同時に体験することができました。また韓国の人達は人との距離が近く、交流の機会が多く、留学生に対して親切で困ったときに助けてくれる人がとても多かったです。

5. 留学のおすすめポイント

異文化の中で生活し、価値観や視野が広がること、語学を「勉強」ではなく「実践」として身につけることができる。自立心・行動力・問題解決力が鍛えられる。このように楽しいは大前提ですが、成長できるということが留学の最大のおすすめポイントだと思います。

6. 留学で成長した点

留学で成長した点は主体性と適応力だと思います。言語や学習スタイル、生活習慣が異なる中で、日本にいたころのやり方が通用しない場面が多くありました。その

たびに周囲の人の様子を確認したりなど、自分なりの対処法を考えられるようになりました。また予期せぬトラブルが起きた際にも、不安になるだけでなく、「今自分にできることは何か」を考えて行動することができるようになりました。私は正直ほかの派遣留学生たちより言語力が劣っていると思います。そのためほかの人たちより思うように言葉が出てこない場面がたくさんありました。最初のころは店員さんと話すのも緊張してしまうほどでしたが、このような経験を通して、困難な状況でもあきらめずに挑戦し続ける姿勢が身につきました。この経験

は、今後どんな環境に置かれても前向きに取り組む力につながると思います。

7. 留学する前に準備しておけばよかったこと

授業について細かいところまで調べておくことだと思います。どのような内容をその授業で取り扱うのか、発表のある授業なのかなど調べておかないと実際に受講するときに困ると思います。私は実際に内容が難しいというよりあまり興味のない分野の授業を取ってしまいついていけないことがありました。

2025年度 短期海外語学研修（英語・中国語・韓国語）報告

アメリカ サンフランシスコ州立大学

国際政治経済学部 国際政治経済学科3年
平栗 颯

1. 留学を終えた感想

アメリカで過ごした3週間は、毎日が初めての経験ばかりで、とても充実した時間を過ごすことができました。本当に毎日が楽しく、あっという間に感じられました。そして、実際に留学を経験してみて、アメリカに留学すると決めたことは自分にとって大きな意味があったと実感しています。大学までの道中、午前中の授業、午後の校外学習、ホストファミリーとの生活、現地の大学で出会った友人と過ごした休日——そのすべての瞬間からたくさんの刺激を受け、成長できたと感じています。サンフランシスコの人々は本当にフレンドリーで、街を歩いているだけでもすれ違いざまに声をかけてくれることがありました。アメリカでの生活を通じて、言葉を使ってコミュニケーションを取ることの大切さと楽しさを、改めて実感することができました。

2. 留学を決めた目的と理由

物心ついた頃から海外に強い興味を抱いており、海外



到着日_ホストファミリーと

留学はずっと私の夢でした。小さい頃から異なる文化や言語に触れることに憧れを持ち、将来は自分自身の目で世界を見てみたいと思っていました。日本にはないさまざまな文化

や価値観、考え方に実際に触れることで、自分の視野を広げ、より柔軟な考え方を身につけられると考え、今回の留学を決意しました。この経験を通じて、自分の成長や将来の可能性をさらに広げたいと考えています。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

留学先の大学では、午前中に授業を受け、午後にはサンフランシスコを中心とした有名な場所や観光地へ、現地の大学生の引率のもと足を運びました。大学の授業がある平日は毎日スケジュールが組まれており、サンフランシスコの観光地を一通り網羅できるプログラムになっていました。午前中の授業は3時間に分かれており、1・2時間目にはアメリカの文化や、その日の午後に訪れる場所の歴史などについて学びました。例えば、ゴールデンゲートブリッジを訪れる日には、その歴史や近くにあるアルカトラズ島についても学習しました。また、あわせて英語の基本的な文法事項やイディオムについても学びました。3時間目は現地の大学生と英語でコミュニケーションを取る時間で、英語のゲームをしたり、自己紹介や日々の出来事について英語で話し合うなど、実践的な交流を行いました。

4. 現地での生活について

私はホームステイだったため、夕食は毎晩ホストマザーと一緒に食べていました。その際には英語でコミュニケーションを取りながら、その日の学校での出来事などについて話していました。ホームステイ先の周辺の町を、ホストマザーに案内していただきながら歩いた時間はとても楽しく、今でも印象に残っています。週末にはメジャーリーグの試合を観戦したり、アナハイムまで足を延ばしてディズニーランドに行ったりしました。大学の平日午後のプログラムが充実していたからこそ、サンフランシスコ以外の観光地にも足を運ぶことができました。

英国 ケンブリッジ大学 ホマートンカレッジ

国際政治経済学部 国際経営学科3年

玉木 陽奈子

1. 留学を終えた感想

今回の留学は、私にとって大変有意義な学びの機会となりました。語学力や専門知識の向上に加え、多様なバックグラウンドを持つ仲間と共に学び合うことで、自らの価値観や視野が大きく広がったと感じています。特に印象的であったのは、ディスカッションを重視した授業です。社会イノベーションや環境問題をはじめ、言語学などの講義においても、唯一の正解は存在せず、多角的な視点から考察する姿勢の重要性を学びました。日本では経験の少なかった活発なディベートを通じて、賛否双方の立場を踏まえた論理的思考力や議論構築力を鍛えることができました。異文化環境の中で言語や習慣の違いに直面することもありましたが、その一つひとつに対応していく中で、柔軟性と自信を培うことができた実感しています。この経験で得た知識と人とのつながりを今後の学びや将来の目標に活かしていきたいと考えています。

2. 留学を決めた目的と理由

留学を決意した理由は、国際経営や経営戦略を専攻する立場として、多角的な視点から学びを深めたいと考えたからです。ケンブリッジでの学びは、語学そのものを目的とする留学ではなく、英語を用いて経営学のみならず社会科学やイノベーションなど幅広い分野に触れられる点に大きな魅力がありました。異なる文化的背景を持つ学生と議論や協働を行うことは、自らの視野を広げ、経営を国際的に捉える力を養う貴重な機会になると考えました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

午前中は、イギリスやクラスメイトの出身国の文化をテーマに情報交換を行い、新しいスポーツや理想的な宿



キャンパスの前で集合写真

泊施設についてグループでアイデアを出し合いながら発表するなど、創造的かつ交流を深める活動が中心でした。午後は、子どものウェルビーイング、金融犯罪、企業の社会的責任と利益追求の両立といった幅広いテーマの講義を受けまし

た。教授から投げかけられる問いに対して、グループで意見をまとめ、時にはケンブリッジの学生にも助言を得ながら発表やディベートを行いました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

広大な大学キャンパスには自然が豊かに広がり、歴史を感じさせる建築とともに学ぶ時間は特別なものでした。クラスメイトとの思い出の中では、中国人学生と取り組んだ共同プロジェクトや、一緒に出かけた小旅行が特に印象に残っています。国境を越えた人とのつながりは、この留学で得たかけがえのない宝物です。

5. 留学のおすすめポイント

留学は「多様性」を肌で体感できる貴重な機会です。異なる文化的背景を持つ人々と協力し、議論する過程で培われる柔軟性や対話力は、国際的なビジネスシーンにおいて欠かせない力となります。英語が完璧でなくても、積極的に発言し相手に伝わったときの喜びは大きな自信につながります。特にケンブリッジでのプログラムは語学習得そのものを目的としたものではなく、英語を用いて経営学や社会科学を学ぶことに大きな特徴があります。専門的な講義は挑戦的である一方、確かな力を養うことができます。また、ケンブリッジの学生と交流する機会も多く、学びへの姿勢や読んでいる書籍について直接聞くことができた点も私にとっては大きな刺激となりました。

6. 現地での生活について

現地では大学の寮で生活し、歴史ある建物と自然に囲まれた環境の中で日々を過ごしました。寮は多国籍の学生が集まる場であり、日常の会話や食事を通じて自然に交流が生まれました。平日は午前・午後の授業やグループワークに取り組みました。夕食後には学内のバーや近隣のパブでクラスメイトと語り、授業では得られない学びや友情を深める時間となりました。週末には市内の散策や小旅行を楽しみ、歴史と学問が融合したケンブリッジならではの雰囲気存分に味わいました。学業と生活の両面で充実した経験ができたと感じています。

7. 留学で成長した点

留学を通じて、最も大きく成長したのは多角的な思考力です。物事を一方的に捉えるのではなく、異なる立場や文化から考察する習慣が身につきました。また、議論を重ねる中で、自分の考えをそのまま正しいと信じるのではなく、常識を相対化し、反対意見を想定しながら思考を深める姿勢を養うことができました。さらに、コミュニケーションの面では、流暢さよりも論理的かつ簡潔に伝えることの重要性を学び、実践を通じて発信力が向上

しました。加えて、異文化環境における挑戦を通じて柔軟性や適応力も高まりました。

オーストラリア サザンクロス大学

文学部 歴史文化学科 1 年
谷 紀輝

1. 留学を終えた感想

今回の留学は英語力の向上だけでなく、異文化への理解を深めることができる良い機会であった。オーストラリアは多文化主義であり、さまざまなルーツを持つ方が生活をしている。実際に大学の授業でお世話になった先生方も、オーストラリアに限らず、ヨーロッパやアジア、中南米出身で英語が第一言語でない英語の先生もいらした。だからこその一つの国でありながら、さまざまな文化を楽しむことができ、どんな文化でも尊重できる広い視野を持つ人がとても多い印象であった。

2. 留学先での学習内容や教育研究活動

現地での授業は基本的な英文法を学ぶのが主であった。クラスメイトは全員日本人であったが、授業中は英語しか話してはいけないというルールがあった。授業内容は特段難しいわけではなかったが、英語の文法について英語で学ぶというのはとても新鮮で、英語で学んでいるからこそその理解しやすさもあった。午前中はクラスで英語の授業をし、午後はクラスが変わり、歌や文化など親しみやすい話題でのコミュニケーションが中心の授業であった。

3. 現地での生活について

8時半から学校の授業が始まるため、朝ごはんを食べる時間や昼ごはんを作る時間、バスの時間などを計算して明日起きなければならない。私の場合、6時に起床、身支度を整え、朝ごはんと昼ごはんの用意をして6時50分頃に家を出発していた。バス停まで徒歩約20分、そこから大学までバスで40分だったため、8時過ぎ頃に大学に到着していた。サザンクロス大学には学生のためにラウンジがあり、朝ごはんやドリンク、フルーツなどが置かれていて自由に食べることができた。授業は午前中が90分授業が2コマ、午後は60分授業が1コマであったため、1時半には授業が全て終了していた。多くの日は学校が終わったあとに友人と大きなショッピングセンターに行き、買い物をしてから家に帰っていた。

週末は旅行に行くことが多かった。ゴールドコースト周辺の地域は公共交通機関が一律50セントと格安に設定されており、電車に乗ってブリスベンに行くことが多かった。また金曜日の授業が終わったあとにバスと夜行列車

に乗りシドニーまで半日以上かけて行った週もあった。

4. 留学で成長した点

英語力で特にリスニング力が向上したと感じている。日常会話はもちろん、授業では英文法について英語で聞いていたため、圧倒的に英語に触れる機会が多く、聞き取ることに重きを置いて生活していた。個人的にI wantやIdon'thavetoなど最初のフレーズを聞き取るのが苦手だったため、今回それを克服できたのではないかと感じている。また、分からないことがあったら質問することが習慣づいたため、知らない人に質問をするため声をかけることにあまり抵抗がなくなった。

5. 留学する前に準備しておけばよかったこと

オーストラリアは手持ちサイズのペットボトル飲料がとても高いため、水を入れるためのマイボトルがあると便利であったらと思うと感じている。

マレーシア アジアパシフィック大学

文学部 国文学科 1 年
大野 拓士

1. 留学を終えた感想

今回の留学を通して自分はこれまでの日本での生活では得られない経験を多くできました。特に、現地の大学内での様々な国の人との交流を通して、日本に住んでいるだけでは知ることのできない価値観や文化を知ることができたことはよかったと思います。なかでも、 Ramadan 期間が重なっていたこともあって、夜道に店が出たり現地の人の生活リズムが大きく変わっているのを直を見て、日本であまり体験できない宗教の生活への影響を感じることができました。また、知識でしか知らなかったプランテーションなどの問題を現地で見て、具体的に問題を知ったり、その問題に悩まされている人の話を聞いたこともよい経験になりました。このような生の体験をできたことが今回の留学で得た一番大きなものだと感じました。

2. 留学を決めた目的と理由

普段と全く違う環境に身を置くことで自分がどう感じるのか知りたかったから。日本とは違った文化や価値観を持った国の人々がどうやって生活しているのか気になっ



ブリスベンにて



クラスメイトと

たから。マレーシアでは多文化共生がうまく成功していると聞いてどんな空気感なのか気になったから。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

午前、午後でスピーキング&ライティングとリスニングに分かれていて、先生の出した問題や議題について考えたりディスカッションする形。ディスカッションは、毎回クラス内で違うグループをつくり、英語のみで行う。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

自分の留学以前の海外のイメージに比べて、親切な人が多く、見返りを求めない善意を自ら進んでやる姿勢は日本には少ない優しさでマレーシアの魅力の一つだと感じた。また現地の食べ物の物価は安く、様々な食べ物に挑戦できるのも良いと感じた。

5. 留学のおすすめポイント

自分の行った観光地でおすすめの場所はタマンネガラ国立公園です。人の手がほとんど加えられていない熱帯雨林なので、日本では見られないような生き物や自然をその場で体験でき、カヌーや散策のツアーなどもあるので自然に疎い人でも楽しめます。

6. 留学で成長した点

英語の語彙力などはあまり変わりませんでしたが、日常会話で使う定型文のような英語は成長したと感じました。また、正しい文章かはわかりませんが、相手に意図を伝えるためのコミュニケーション能力はついたと感じました。

7. 留学前の自分に伝えたいこと

最初の一週間はカルチャーショックであまり現地のものに挑戦しようと思えないが、一か月で見られるほど国は狭くないので帰国後後悔がないようにできるだけ外に出て、そこでしか得られない経験を積んだほうがいい。

8. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学先のマナーや文化については調べないとトラブル

の元なので、絶対に調べたほうが良い。マレーシアの場合、食文化の違いで、野菜を接種できず体調を崩す学生も多かったので、気になる人はビタミン剤などを持っていくことも検討するべき。日本のお菓子やカップ麺などの慣れた食べ物を少し持っていくと食に慣れるまでのつなぎになる。

フィリピン エンデラン大学

文学部 国文学科4年
三浦 萌夏

1. 留学を終えた感想

まずは行ってよかったなというのが一番の感想です。私は海外に行くのが初めてだったので心配や不安でいっぱいだったのですが、現地で出会ったルームメイトや先生、フィリピンの方々の優しさに支えられて無事に2週間を過ごすことができました。私は英語が全く話せない状態で挑戦したい気持ちだけで現地に行きました。それでもごくわずかな単語を使って伝えようとすると思わずとわかってもらえることも多く、勇気をもって話してみること、伝えようとする気持ち、相手への感謝や尊重の気持ちをもつことが大切だと実感しました。実際に経験しないとわからないことをたくさん経験できたことが何よりの財産になりました。もっと滞在したかったと思うくらい楽しい思い出を作ることができました。

2. 留学を決めた目的と理由

もともと海外に興味があったものの踏み出せずにいたところ語学研修のお知らせを見て、大学生活最後に何か挑戦してみたいという気持ちだけで飛び込みました。英語でのコミュニケーション力を向上させることはもちろん、海外はどのようなところなのだろうと実際に自分の目で見てみることを目的に現地に行きました。自身の進路を改めて考えるきっかけにできたらいいなという気持ちもありました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

プログラムは現地の大学で組んでくださっているので、自身で考える必要はありませんでした。オリエンテーションや語学研修に来た学生同士の交流会、アクティビティなど様々な活動があり、授業以外にも楽しめることが豊富でした。授業はマンツーマンの個人授業と少人数のグループ授業がありました。基本的に事前のクラス分けテストでレベル分けされていますが、学ぶ内容や先生の変更は学生の要望があれば対応してもらえる印象でした。特に個人授業は担当の先生次第で授業のやり方や内容が

まったく異なったので、コミュニケーションを取り自分の気持ちを素直に伝えることが必要だと思います。宿題も個人授業は先生と学生次第、グループ授業は適度に出ていると感じました。グループは困ったら互いに助け合う気持ちで行うことができたので、何とかやっていけました。先生方はとても優しく、困ったこと、心配に思っていることを素直に話すと親身に寄り添って聞いてくださり、授業の難易度や説明の仕方はそれぞれの生徒に合わせて調節してくださっていると感じました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

フィリピンの魅力は良い意味で人々がのんびりしていて楽しそうに働いているところが素敵だと思いました。困ったことがあると助けてくれるので優しさを感じました。また、大学の周辺はフィリピンのなかでもかなり安全な地域だったと思うので、警戒を怠らないことを大前提に行動可能範囲になっていたところは女性一人で歩いても大丈夫だと思いました。私は授業初日に教室への行き方がわからず困っていたのですが、近くにいたお兄さんに聞いてみると親切に入口まで連れて行ってくくださり、そこで一気に海外で生活することへの不安が払拭された気がします。

5. 留学のおすすめポイント

まずは研修にかかる費用が他の国に比べると安いところが魅力的だと思います。私は大学が研修費用を負担してくださったので、その他にかかる費用のみで研修に行くことができました。時差も少なく気候も日本より過ごしやすいこと、同時期に日本人学生が大勢いたことも海外初心者の方にはおすすめだと思います。また、今回のプログラムでは住居は大変発達した地域付近にありながら、アクティビティでは現地の実情を感じられたので両面を見られたことがとても良かったです。マンツーマン授業があるところもフィリピンならではの点だと思います。

6. 現地での生活について

宿泊先の寮は思っていたよりもかなりきれいでハウスキーパーの方々が毎日掃除をしてくださったり、週に2回の洗濯サービスがあったりと生活しやすかったです。自炊は禁止されているので電子レンジかお湯での調理のみですが、目の前にモールがあり、現地で使えるデリバリーアプリで配達を頼むこともできるので食べるものに困ることはなかったです。私の一日のスケジュールは平日は9時から12時までマンツーマン授業、12時から13時まで昼休憩、13時から16時までグループ授業、その後は自由時間で門限は22時でした。

7. 留学で成長した点

わからないことはわからないと素直に伝えて質問する力が身についたと思います。現地では



最高に楽しかった交流会

わからないことだらけなのでどんどん助けを求めることが必要だと感じました。伝えられれば皆さん助けてくださるので、積極的に伝えることが大切だと学びました。英語力は2週間で伸びたわけではないですが、毎日英語を聞いて生活しているのでリスニング力はほんの少し上がったと思います。

8. 留学前の自分に伝えたいこと

「心配しないで楽しんで！」と伝えたいです。貴重な経験、楽しい体験がたくさん待っているし、助けてくれる人もたくさんいるからとにかく初めての海外をめいっぱい楽しんでほしいこと、英語ができなくても何とか生活できることを伝えて安心してほしいです。

台湾 淡江大学

文学部 国文学科1年
松浦 花音

1. 留学を終えた感想

私は今まで海外に行く経験をしたことがなかったので、現地に着いた瞬間から初めてのことでとても面白かったです。いろいろなことが立て続けに起こってめまぐるしい日々でしたが、慣れない場所で不安だったので、逆によかったです。慣れるまではしばらく落ち着かなくて大変でしたが、慣れてからは、台湾のいいところをたくさん見つけることができました。三週間の学習で急に語学力が伸びるということはありませんでしたが文化を学ぶという点では実りある短期留学でした。一番良かったのは今回3週間台湾で生活したことで海外に行くハードルが下がったことです。留学前は外国に行くのは一度きりかなとも思ったのですが、また行くことになりました。お金を貯めたら、まだ台湾でやりたいことがあるので台湾に行きたいし、違う国にも行ってみたいです。

2. 留学を決めた目的と理由

私は、大学に入学したころ長期留学に憧れがあったので、国際交流センターに相談したら、こちらの研修をおすすめしていただいたので、一度短期留学を体験して、

それから長期留学をするかどうか考えようと思っていました。留学したかった理由は観光と語学学習です。日本以外の国の文化を実際に体験して自分の視野を広げたいと考えていました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

授業は語学の授業や文化の授業がありました。語学の授業では、よく、音読や文章の作成をしました。また、週に一度の校外学習では現地のカウンセラーの案内のもと、台湾の観光地を巡りました。宿題は漢字の書きうつしや並び替え問題など簡単なものが多かったのですが、最後のテスト用の発表原稿の作成は難しかったです。クラスメートは年齢はバラバラでしたが全員日本人でした。先生は中国人で、日本語が話せる先生もいました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちの思い出

台湾は外食文化なので飲食店が多く、安いのが魅力です。もちろん味もおいしいです。自炊はできなかったのですが、友人と外食に行ったり、一人で探検してみたりしていました。台湾の人は優しい人ばかりで、お店の人と買い物しながら簡単な中国語でお話をしたり、お店の待ち時間にほかのお客さんと中国語の練習をしたり、直接おすすめの商品を教えていただいたり、とても楽しい時間を過ごすことができました。生のプチトマトを頂いたときは驚きましたが、おいしくいただきました。

5. 留学のおすすめポイント

現地の空気感をそのまま味わうことができるのが一番の魅力です。行く前に調べてはいましたが、写真と自分の目で見るのとは認識のしかたが全然違いました。長期間その国の生活に合わせることでみえてくることもありますし、実際に留学して文化を体験することは、日本で本を読む以上の価値があると思います。

6. 現地での生活について

寮には常に人がいたので、雰囲気も明るかったです。



ネギ収穫成功

平日は、朝学校に行って夕方方は自由時間でした。学校の近くに飲食店があって、お昼ご飯も外で食べるので体感は自由な高校生活でした。週末は時間があるので、電車で遠くの観光地に行くことが多かったです。

7. 留学で成長した点

三週間しかないのに、ぼ

んやりしていたらもったいないと思っていろんなところに行っていたら、行動力が身につきました。行きたいところがあったらとりあえず行ってみていたので、思い残したことも少ないです。台湾に行く前に友人に勧められていた臭豆腐だけは何度もチャンスがあったのにも関わらず、臭いに怖気づいて挑戦できなかったのが心残りです。

8. 留学を検討している後輩へのアドバイス

勉強はできるだけ頑張ったほうがいいに決まっていますが、できなくても留学はできるので気負わなくて大丈夫です。私は検定用の勉強をしていましたが、残念ながら、検定用の中国語はあまり役に立ちませんでした。なので、外国で生活するなら日常生活用の外国語を勉強するか、行きたい場所を調べて楽しみを増やすことをおすすめします。

台湾 国立台湾師範大学

文学部 国際日本・中国学科 1年
小口 楼紗

1. 留学先での学習内容や教育研究活動

月曜から金曜の午前が授業で、午後は文化授業や校外授業がありました。授業では、中国語の基礎や、単語を多く学びました。また、授業で学んだことを生かして発表する時間も多くありました。わからないことがあれば、クラスメートの人たちも先生に積極的に質問したりと、安心して授業を受けられる空間でした。

2. 留学先の魅力や出会った人たちの思い出

おいしい食べ物がたくさんありました。味に癖があるかなと思っていましたが、実際はそんなことなく、どの食べ物も食べやすい味でした。夜市ではたくさん屋台が出ているので、自分のお気に入りの食べ物を見つけることができました。コンビニにも日本食が売っているので、台湾食に不安があっても大丈夫です。台湾の人たちはみなあたたかく、優しい人が多い印象でした。拙い中国語を話す私たちにも笑顔で接してくれたので、居心地がよかったです。

3. 留学のおすすめポイント

私は、九份と十份と士林夜市に行きました。「千と千尋の神隠し」の幻想的な世界と似ているので有名な九份の景色は、とても綺麗でした。特に夜のほうが赤い提灯が灯り、絶景でした。全部で300段ほどある階段を登り切った時は、達成感がありました。十份では、ランタン上げを行いました。生憎の天気でしたが、ランタンに願い事



文化授業 紙扇

を書き、自分たちで空に飛ばして楽しかったです。台湾では、言葉がわからなくても現地の人たちは、優しく

接してくれました。留学は、自立への一歩だと思います。

4. 現地での生活について

宿泊は一人部屋のホテルだったので、一人暮らしのような感覚で三週間過ごしました。午後や休日など、時間が空いた時には、ホテル周辺のご飯屋さんに行ったり、買い物をしたりしました。また、電車とバスに乗って、少し遠くに出向いたりもしました。初めは不安だったけれど、町の治安もよかったため、一人でも問題なく行動できました。

5. 留学で成長した点

自主的に行動することです。何かわからないことがあってもそのままにせず、一旦質問してみたり、行動に移すことが大切だと改めて感じ、それを実行することができたと思います。あとは視野が広がったことです。日本と台湾の違い、日本での生活のしやすさを実感しました。日本で当たり前だと思っていることは当たり前でなく、様々な視点から物事を考えることができました。もちろん、それぞれの国の良さがあり、そこを比べてみると面白かったです。お互いを理解する大切さを実感しました。

韓国 建国大学校

国際政治経済学部 国際経営学科3年
高橋 沙也加

1. 留学を終えた感想

短期のホームステイ留学だったが、ホストファミリーとの出会いや学校での生活は想像以上に充実したものとなった。初めは言葉が通じるか不安で緊張していたが、ホストファミリーは温かく迎えてくれ、食事や会話を通して少しずつ自然に会話のやり取りができるようになった。特に、一緒に買い物に行ったり、料理を作るのを手伝ったりした時間は、とても貴重な時間だった。また学校では、友達と授業だけでなく、休み時間や放課後の何気ない会話からも多くを学ぶことができた。文化や習慣の違いに戸惑う場面もあったが、そのたびに相手を理解しようと努力することで、異文化を尊重する姿勢の大切さを実感した。この経験を通じて語学力だけでなく柔軟な

考え方も身につき、自分の世界が広がったように感じた。

2. 留学先での学習内容や教育研究活動

留学先では最初にレベルテストを受け、自分に合った教科書で授業を受けることができた。授業では書くだけでなく発表の機会もあり、実践的に学べたのが印象的だった。

3. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

ホームステイ先の家族とは一緒に食事に出かけたり、ハンガンでサイクリングを楽しんだり、普段から充実した時間を過ごすことができた。学校の近くは繁華街だったため、授業後にはショッピングをしたりカフェでくつろいだりし、学習以外にも多くの楽しい思い出を作ることができた。

4. 留学のおすすめポイント

韓国は日本と街並みや生活習慣がよく似ているため、初めての留学でも安心して過ごすことができ、交通機関や食文化もなじみやすく、生活に困ることがほとんどなくてよい。

5. 留学で成長した点

韓国語を実際に使う場面で臆せず発言できるようになった。最初は間違えることを恐れていたが、日常会話や授業で繰り返し挑戦するうちに自信がついた。また、文化や習慣の違いに直面しても柔軟に受け入れ、相手を理解しようとする姿勢を持てるようになったのも大きな成長だったと思った。

6. 留学する前に準備しておけばよかったこと

生活習慣や体調管理への意識が重要だった。現地では食事や気候が日本と異なるため、体調を崩さないように薬や日用品を持っていけば安心できたと思う。

7. 留学前の自分に伝えたいこと

完璧を求めずにもっと気楽に挑戦した方が良かった。最初は言葉の間違いや文化の違いを恐れて消極的になりがちだが、失敗から学ぶことこそが大きな成長につ



学生全員での集合写真

ながると思った。自信がなくてもまずは声に出してみることによって人との距離が縮まり、貴重な経験をより豊かにできるはずだと考えた。

韓国 高麗大学校

文学部 国際日本・中国学科 1 年
松丸 敬吾

1. 留学を決めた目的と理由

留学を決めた理由は、1人で海外に行ってみたいなと思ったのがきっかけです。家ではいつもように朝起きたら親がいて風邪をひいたら看病してくれたりなど当たり前前の生活が留学先では全部1人で責任を負うことで一歩大人に近づけるのではないかと思い決めました。

2. 留学先での学習内容や教育研究活動

自分にあったレベルの勉強内容でとても良かったです。クラスメートには数人外国の方もいて英語と韓国語での会話があり日本人が多いからといって日本語を多用することが少ない印象でした。午後には特別授業が行われ、韓国で生活する上で必要不可欠な日常会話を学び必然的に聞き取れるようにもなりました。宿題はほぼありませんでしたが、テストや小テストがありそれに向けて勉強するという予定も組めてとても良かったです。

3. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

最初、飛行機に乗る時からホストファミリーと出会うまですごく緊張していました。いざ対面してみると笑顔

で歓迎してくれてとても安心しカタコトな韓国語でも親身になって聞いてくれました。前々から韓国に友達がいってその子に漢江に行ったり一緒に映画を見に行きました。ですが、予定が合わないなどで1人で過ごす時間



同じクラスのデニスとのお別れ

が増えて寂しく孤独に感じる時間がありました。その時、大学で勇気を出して声を掛けてみるとその方がゲーム部屋やホラー脱出ゲーム、ご飯など全部奢ってもらいました。美容院に行きたいと言ったら電話をかけてくれて予約まで取ってくれました。最終日には自分の友達の知り合いのガイドさんが街を案内してくれてプレゼントを沢山くれました。貰った時には沢山泣きました、空港でも。別れるのがとても辛かったです。ですが明確な目標ができました。皆さんが応援してくれるのをバネに勉強に励もうと感じました。

4. 留学のおすすめポイント

自分の意見は沢山発言した方がいいと思いました。韓国は隣国ですがやはり性格の違いを感じました。5分に一度は質問してきます。何を食べたいか/おいしいか/お腹がいっぱいになったか/どこ行きたいかなどしつこい程に聞いてきます。ですが、躊躇せずにあれこれしたいなど言うと全く嫌な顔せずに連れて行ってくれます。遠慮することはネガティブな印象がつくようになりました。

2025年度 国際交流の会および懇親会の実施報告

本学主催の総合的な国際交流行事である「国際交流の会」を、創縁祭の開催にあわせて実施いたしました。当日は、昨年に引き続き、日本の食文化を体験する企画として「たこ焼きパーティー」を開催し、日本人学生がたこ焼きの作り方を外国人留学生に説明しながら、共にたこ焼きを楽しむ交流の場となりました。また、行事終了

後には、本学留学生と父母会役員、関係教職員、本学学生との懇親会を開催し、親睦を深めるひとときを過ごしました。今年度は海外の着席レセプションを意識したフォーマルな晩餐会形式にて、上品な雰囲気のなかコース料理と会話を楽しみました。



2025年度 日本語・日本学特別プログラムと 国際日本学特別プログラム修了報告

留学報告書 嘉興大学

童 燁涛

別れはいつも突然訪れる。気がつけば、日本での生活も九か月以上が過ぎ、帰国の日が近づいている。写真を整理しながら、この留学期間が想像以上に充実していたことを改めて実感した。通学路で見た桜、晴れた日の富士山、夜に賑わう花火大会、京都の静かな古建築、そして北海道一面の雪景色—日本では多くの美しい風景に出会うことができた。また、授業で学んだ知識に加え、日本という言語環境に身を置いたことは、私の日本語の会話力向上に大きく役立った。特に飲食店でのアルバイトを通して、日本人の客や同僚の言い回しを観察し、意識的に真似することで、日常的な挨拶や対応力が来日前より向上したと感じている。来日当初は、会釈やエレベーター内での気配りなど、日本独特の生活習慣や文化に戸惑うこともあった。しかし今では、自然と自分から会釈をし、他人のためにエレベーターのボタンを押す側になり、文化への適応と自身の成長を実感している。滞在中には中日関係が緊張する場面もあったが、日常生活でそれを強く感じることはほとんどなかった。アルバイト先の同僚は変わらず親切で、電車内でも人々は互いの静けさや距離感を大切にしている。こうした日常の体験こそが、日本社会の実像だ。帰国後は大学生活の最終学期とインターンシップを迎える。日本での留学生活は今後も忘れられない記憶となるだろう。次に日本を訪れるのがいつになるのか、どのような立場や目的で来るのかは分からない。しかし、別れの寂しさとともに、再び日本を



京都にて

訪れる日への期待も、すでに心の中に芽生えている。ここで筆を置き、この留学生活に区切りをつけたい。

さようなら、日本。

留学報告書 四川外国語大学

王 晴

去年の四月に日本に来てから、もう9ヶ月ぐらいが過ぎた。来たばかりのとき、通学時間が1時間以上かかる

ことや、さっぱりした日本料理にあまり好きではなくて、慣れないことが多かった。しかし、今は日本の生活や文化にも慣れた。世界各地の



着物を体験

友達ができ、日本語や英語を使う機会を増えた。時々味噌や納豆を買って、寮で料理をした。電車の中で眠ってしまうこともあった。また、ファミリーマートでアルバイトをして、同僚たちとのいい関係を築くことができた。偶に家族に会いたくなることもあったが、気分転換の方法を探して、前向きに過ごせた。二松学舎大学の学習環境が整っているし、先生や先輩たち、みんな親切かつ優しく、もし困ったことや悩みがあれば彼らと相談するのは大丈夫だ。学校は東京の都心に位置しているので、どこに行っても便利だ。夏休みに、友達と鎌倉や横浜に行ったり、村上花火大会を見たり、焼肉やラーメン、寿司などを食べたりして、楽しい時間を過ごした。秋から冬にかけては、気温の変化や銀杏が黄色く染まる景色から、日本の四季を強く感じた。クリスマスにはクラスメートと一緒に東京で過ごして、原宿でショッピングをして、にぎやかな雰囲気がずっと頭に残っている。お正月のとき、みんな寮でおいしい料理を作って、歌を歌って、年越しをして新しい年を迎えた。アルバイトが終わった後、初めて着物を体験して、東京ディズニーシーに行き、めっちゃ楽しかった。富士山や台湾も旅行して、多くの不思議な経験をした。留学生活は本当にあっという間だったが、忘れられない思い出になった。機会があったら、また日本に来たいと思っている。

留学の感想 浙大城市学院

林 晨希

この一年間の留学生活は、私にとって一生忘れることのできない大切な思い出です。振り返ってみると、毎日がとても充実しており、意味のある時間だったと感じています。二松学舎大学の先生方のご指導と温かいご配慮に、心から感謝しています。特に印象に残っているのは、ほとんどの先生方が、私たち交換留学生の授業の内容や生活をととても気にかけてくださったことです。授業後に声をかけてくださり、「授業は理解できましたか」「生活



京都で着物の体験

は大丈夫ですか」と尋ねてくださることもありました。そのような気遣いが、異国の地で生活する私にとって大きな支えとなりました。最初は授業内容をほとんど理解できませんで

したが、今では約80%ほど理解できるようになりました。また、国際交流センターは留学生向けの交流イベントも多く行われており、そこで仲の良い日本の友達と出会うことができました。SNSで連絡を取り合ったり、一緒に食事をしたりした時間は、私にとってとても大切な思い出です。暇の時には、関西や関東、沖縄などさまざまな地域を旅行しました。そこでは、美しい景色やおいしい食べ物だけでなく、日本人の温かさを感じることができました。日常生活の中でも、日本ならではの新しい体験を多くすることができました。喫茶店を巡ったり、神保町の書店街を散歩したり、博物館や美術館を訪れたりしました。中国とは異なる生活を体験しながら、自分の人生経験を広げることができたと感じています。交換留学生として日本で学び、生活したこの一年間は、私にとってとても貴重で幸せな時間でした。このような素晴らしい機会を与えてくださった母校と貴校に、心より感謝申し上げます。

日本での留学、そして夢へ 江西師範大学

陳 思睿

日本語科の学生として、「言葉を本当に理解するには、

その国で生活するしかない」ということをよく知っています。そう強く思うようになったとき、大学に日本への交換留学のチャンスがやってきたのです。何の迷いもなく、さっそく申し込んで、期待と不安を抱えながら、日本にやってきました。

着いてすぐの頃は、授業での早口の講義や、友人同士の雑談に戸惑ったこともありましたが、それ以上に、すべてが新鮮で刺激でした。駅のアナウンスも、スーパーのチラシも、街中の看板も、すべてが生きた教材です。コンビニのお弁当も、レストランの定食も、そして何より、季節ごとの食材を味わえる様々な料理は、どれも本当に美味しくて、日本での生活の大きな喜びの一つです。また、日本語教室に積極的に参加しています。各国から来たたくさんの友達と出会い、先生たちの熱心な指導を受ける日々の中で、私は少しずつ、日本語が“知識”から“自分の一部”に変わっていくのを感じています。失敗を恐れずに話してみることで、相手の気持ちを汲み取ろうとすることの大切さを、実際の生活で学んでいます。この留学体験は、私の将来の夢をより確かなものにしてくれました。帰国後、日本語教師になりたいと考えています。単に文法や単語を教えるだけでなく、私が日本という国に憧れたように、そして実際に日本で感じた温かさや発見の数々を、次の世代の生徒たちに伝えたいと思っています。日本語を通して、両国の架け橋となるような教師になること——それが、私の夢です。



高松観光

2025年度 交換留学生報告書

心の成長と学びの六か月間 カ・フォスカリ大学（イタリア）

メウッチ アリーチェ

二松学舎大学では主に日本語の授業を受講したが、どの授業も内容と教え方にバリエーションがあり、とても興味深いものであった。クラスの人数が多すぎなかったため、一人ひとりが積極的に参加できる環境であったことが特に印象的である。また、先生方は親切で理解があり、問題があるときはNishoUNIPAやメールで相談でき、すぐに丁寧な返答をいただけた。東京はとても大き

な都市で、自分の性格には少し刺激が強いと感じることもあったが、千葉の寮で静かで落ち着いた地域と接することができたのは大きな支えであった。また、国際交流センターの先生方や職員の方々は、最初のオリエンテーションの日から、学業だけでなく生活面でも親身にサポートしてくれた。特に、難しい手続きも丁寧に案内していただき、大変助けられた。大学のキャンパスもとても魅力的である。皇居や靖国神社の近くに位置し、緑が多く、美しい環境に囲まれていた。授業外でも勉強や食事、友人との会話、休憩ができるスペースがあり、快適な学生生活を送ることができた。日本語の自由な会話に

はまだ苦手意識があるが、一か月を過ぎた頃から少しずつ自信がついてきた。これは、先生方がミスを責めず、多くの課題を通して支えてくださったおかげである。特に漢字の読解力とレポートの書き方は大きく成長したと感じている。この六か月間、二松学舎大学で学ぶ機会を得られたことに深く感謝している。この経験を通して、自分自身や将来について見つめ直すことができた。また、困難に思えることでも、努力すれば乗り越えられるという自信を得ることができた。

留学報告書 浙江工商大学（中国）

沈 靖凱

一年間にわたる二松学舎大学での交換留学生生活は、気づけばあっという間に終わりを迎えました。この留学経験を振り返ると、語学力や学術的能力の向上にとどまらず、異文化理解や自己認識、さらには将来の進路についても多くの貴重な学びを得ることができたと感じています。学習面においては、日本の大学における自由でありながらも厳密な教育スタイルが非常に印象的でした。授業では、教員が学生に対して主体的な思考や積極的な発言を促し、正解そのものよりも思考の過程や議論を重視していました。当初はこのような授業形式に戸惑いを感じましたが、次第に自分の考えを日本語で整理し、発言することにも慣れ、積極的に授業に参加できるようになりました。ゼミの参加を通じて、学術的視野が広がっただけでなく、異なる言語・文化背景を持つ環境での学術的コミュニケーション能力も向上したと感じています。語学力の向上は、今回の留学における最も直接的な成果の一つです。日本語のみが使用される環境の中で、当初は緊張や不安を感じる場面も多有りましたが、次第に日常会話だけでなく、授業での発言や発表、討論にも自然に対応できるようになりました。この経験を通して、言語は単なる意思伝達の手段ではなく、その国の文化や思考様式を理解するための重要な媒介であることを強く実感しました。総じて、二松学舎大学での交換留学生生活は、学びと成長に満ちた非常に意義深い経験でした。この経験は、今後の学習や進路選択



東京羽田空港にて、見学

においても大きな指針となり、私の人生における重要な財産として、これからも長く心に残り続けるものだと思います。

留学して感じたこと 中国文化大学（台湾）

陳 芮萱

日本に留学してから一年が経ちました。この一年で、本当にたくさんの貴重な経験ができました。最初は不安もありましたが、今では日本に来てよかったと心から思っています。特に印象に残っているのは、日本の四季を直接感じられたことです。春には満開の桜を見に行き、友達とお花見をした思い出は忘れられません。また、秋の紅葉や冬の雪景色など、日本ならではの自然の美しさにも感動しました。観光も大きな楽しみの一つでした。東京ディズニーランドやユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行き、日本のテーマパーク文化を肌で感じることもできました。アトラクションやショーを楽しみながら、夢のような時間を過ごしました。私はもともとアニメが大好きなので、日本に来てからアニメイベントや展示を訪れるのが楽しみでした。中でも嬉しかったのは、SNSでずっと応援していた好きなコスプレイヤーさんをイベントで実際に見られたことです。同じ趣味の人たちと交流できたことも、素敵な思い出です。また、日本での一人暮らしを通じて、自分で生活を管理する力も身につきました。はじめは戸惑うことも多く、ごみの分別や行政の手続きなどに苦労しましたが、少しずつ慣れ、今では自信を持って生活できるようになりました。この一年は、新しい発見と挑戦の連続でした。困難を乗り越えることで、自分自身が大きく成長したと感じています。日本での経験は一生の宝物であり、将来もこの経験を活かしていきたいです。留学して本当によかったです。



友たちとユニバーサルスタジオ

います。特に印象に残っているのは、日本の四季を直接感じられたことです。春には満開の桜を見に行き、友達とお花見をした思い出は忘れられません。また、秋の紅葉や冬の雪景色など、日本ならではの自然の美しさにも感動しました。観光も大きな楽しみの一つでした。東京ディズニーランドやユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行き、日本のテーマパーク文化を肌で感じることもできました。アトラクションやショーを楽しみながら、夢のような時間を過ごしました。私はもともとアニメが大好きなので、日本に来てからアニメイベントや展示を訪れるのが楽しみでした。中でも嬉しかったのは、SNSでずっと応援していた好きなコスプレイヤーさんをイベントで実際に見られたことです。同じ趣味の人たちと交流できたことも、素敵な思い出です。また、日本での一人暮らしを通じて、自分で生活を管理する力も身につきました。はじめは戸惑うことも多く、ごみの分別や行政の手続きなどに苦労しましたが、少しずつ慣れ、今では自信を持って生活できるようになりました。この一年は、新しい発見と挑戦の連続でした。困難を乗り越えることで、自分自身が大きく成長したと感じています。日本での経験は一生の宝物であり、将来もこの経験を活かしていきたいです。留学して本当によかったです。

銘伝大学（台湾）

王 芊婷

今回、二松学舎大学での半年の留学生生活は本当にあっという間でした。でもこの数カ月、毎日充実した生活を



浴衣を着て、夏まつりに行く

過ごしています。私は今回の日本留学を通して、語学力だけでなく、自分自身についても多くのことを学びました。特に、日本語での細かいニュアンスや自然な表現を使い

こなすことの難しさを実感し、自分の日本語力がまだまだ未熟であることを痛感しました。最初は言葉の壁や文化の違いに戸惑うこともありましたが、現地の人々との交流や授業でのディスカッションを通じて、少しずつ自信がついてきました。それによって、もっと語彙力を増やしたい、聞き取りや表現力を磨きたいという気持ちがさらに強くなりました。日本はどんな季節も楽しめる国だと思います。春には桜、夏には祭りやひまわり、梅雨の時期にはあじさいがあります。たったの半年間で、たくさんの景色を満喫しました。初めて浴衣を着て、夏祭りに行き、アニメの中にいるように感じました。ヨーヨー釣りもしましたし、焼きそばも食べました。半年という短い時間でしたが、たくさんの「はじめて」に出会い、自分の世界が大きく広がったと感じています。

二松学舎での交換留学を終えて 成均館大（韓国）

金 太陽

一年前、見知らぬ環境で新しい人々と出会うことへの不安を抱えながら来日した。しかし、学生たちも先生方も本当に親切で、私がスムーズに適応できるよう温かく

支えてくれた。その優しさに、今でも深く感謝している。授業については、最初は先生の言葉を聞き取れなかったり、難しい漢字に苦労したりす

ることも多かった。しかし、日本人の友人たちと積極的に交流し、毎日日本語を使い続けるうちに、気がつけば日本語力が飛躍的に伸びていた。ディスカッションやプレゼンテーションも、誰の助けも借りずにこなせるようになり、授業内容をしっかり理解できるようになった。日本でしか受けられない興味深い講義を完全に自分のものにできたことは、学問的にも大きく成長する基盤となった。この一年で最も心に残っているのは、軽音楽部での活動である。留学生は私だけだったが、部員たちは快く受け入れてくれた。一緒にバンド練習をしたり、学園祭でライブをしたりする中で、かけがえのない仲間ができ、たくさんの楽しい思い出を作ることができた。もともと日本の文化や音楽が大好きだったが、実際に日本で様々なフェスティバルや憧れのバンドのコンサートに足を運び、東京近郊の色々な場所を旅して、五感で日本を体験できたことは、想像以上に充実した経験となった。海外で暮らすということは、それ自体が貴重な経験だが、何より、韓国で当然だと思っていた価値観や物の見方が、日本での生活を通じて大きく変わったことに気づいた。この留学は、私の世界観を広げてくれた、人生の大切な財産になったと確信している。



クロッカスのベーシスト

国際交流センターからのお知らせ

国際交流センターでは、「グローバルシチズンの育成」を目指し、学生一人ひとりの成長につながる多様な国際交流の機会を提供し、留学、外国語の学び、異文化交流の3つの柱を中心に取り組みを行っています。

本学初となるフィリピンでの研修実施や、成長著しいマレーシアの大学との新たな協定締結、地政学的にも特徴ある台湾の大学との関係構築など、学びの場を着実に広げています。また、本学学生と留学生が日常的に交流できるよう、留学生チューター制度（留学生を支援する学生ボランティア）や異文化交流イベントを実施しています。加えて、外国語を実践的に学ぶ講座や海外危機管理に関する講座も展開し、安心して海外に挑戦できる環境づくりに努めています。今後も、学生の視野を広げる取り組みを一層充実させてまいります。

国際交流センターについて www.nishogakusha-u.ac.jp/international

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail : icenter1@nishogakusha-u.ac.jp